



自然の解説者

春季号 [第 35 号] 2012 年 4 月 23 日

NPO 法人
ぐんま緑のインタープリター協会紙
事務局：〒375-0011 藤岡市岡之郷 1179-3
櫻井昭寛 方
電話・Fax 0274-42-2726
<http://inpuri.web.fc2.com/>
編集：総務企画部会

平成 24 年度を迎えるにあたって

NPO 法人ぐんま緑のインタープリター協会
理事長 亀井 健一

本協会は平成 15 年に誕生しましたので、今年度は創立 10 周年を迎えることとなります。その間、少しも滞ることなく今日を迎えたことについて、お祝いとお喜びを申し上げます。会の発展と歴史にとって 10 年目は重要な節目になります。というより節目にしなければならぬと思っています。そのような認識のもとに、会員の皆さんと共に会の運営に当たってゆきたいと思っています。

ご承知の通り会の活動は、総務企画、普及、受託協力及びインプリの森の 4 部会による責任体制で行われています。23 年度の事業概要（総会資料）にあるように、その活動は多岐にわたっていますが、おおむね目標とする成果を上げることができたと思います。この成果は偏に会員の皆様が熱心に取り組まれた結果であり、心より感謝申し上げます。一方、現状に甘んずることなく、改善すべきところは、改善してゆかなければならぬと思っています。

日本は世界有数の森林国でありながら、整備不足の森林が多く、森林の持つ環境的機能の低下が懸念されています。また、整備不足に起因すると思われる松くい虫やナラ枯れ被害が発生しています。国連では 2011 年を「国際森林年」と定め、各国に森林の保全と持続的な利用に取り組むよう求めています。その取り組みは十分とは言えません。このように、森林をめぐっては簡単には解決できない難しい問題が山積しています。

以上のような状況の中で、本協会としても協会の目的である、人と自然との共生や循環型社会の実現に不可欠な「森林」について、県民の理解を深めるための普及活動に一層努める必要があります。また、「生物多様性」の保全に、協会としても身近なところで、できることから取り組んでゆきたいものです。たとえば、野生生物、とりわけ絶滅のおそれのある野生生物を大切にすることや、生態系の保全に協力することなどの面で、微力ではあっても寄与することが、立派な社会貢献になると考えています。

今年度取り上げる部会別の活動目標と重点目標は、総会資料の「基本方針」にある通りですが、創立 10 周年を祝う記念事業として、通常総会終了後「西上州の地質と日本ジオパークについて」のテーマで記念講演会を開催し、後日下仁田町で現地研修を行うこととしました。

結びに、本協会の発展と会員の皆様のご活躍を祈念し、新年度を迎えてのご挨拶とさせていただきます。



平成 24 年度 ぐんま緑のインタープリター協会 第 10 回通常総会

4 月 15 日(日)前橋市総合福祉会館において協会員 89 名が参加（本人出席 58 名、委任状出席 31 名）して総会が開催されました。

亀井理事長より協会創立 10 周年という節目の年に、協会目的の「人と自然の共生・循環型社会の実現」に不可欠な「森林」について県民の理解を深めるための普及活動に一層努めるとの決意の挨拶がありました。来賓としてご出席いただいた県環境森林部緑化推進課半藤和之課長よりご祝辞をいただきました。

平成 23 年度事業並びに平成 24 年度事業案は原案どおり全会一致で承認決定されました。また第 3 号議案の定款改定も全会一致で承認されました。

任期満了に伴う改選役員と組織体制は次の通りです。（櫻井）

組織体制	理事長	亀井 健一			
	副理事長	別井 幸夫			
	総務・企画部会	総務担当理事	櫻井 昭寛	普及部会	担当理事 住谷 収
		企画担当理事	宇多川 紘	受託協力部会	担当理事 吉田 幸一
	インプリの森部会	担当理事	吉本 一夫		



＜協会活動のトピック 1＞ 自然観察自主研究会の報告

平成 23 年度、自然観察会の第 1 回目は、5 月 12 日(木)に 8 名のメンバーの参加を得て、高崎染料植物園で行いました。高崎観音山丘陵地帯はかつて行われていた薪炭などの利用がなくなり、そのため雑木林からシラカシ、アラカシ、アオキ、シロダモ等照葉樹林への遷移が進行しています。土地も人工林も痩せ細った感じがしました。

2 回目は、6 月 2 日(木)雨に煙る赤城山小沼湖畔を 6 名で自然観察をしました。目的としたシロヤシオはまだ開きかけた蕾でしたが、ムシカリ、コヨウラクツツジやヒョウタンボクなどが霧にかすみ素敵でした。

3 回目は、8 月 26 日(金)に 11 名が参加して、妙義山で行いました。9 月に予定している一般向け自然観察会の下見を兼ねました。凝灰角礫岩の岩峰に囲まれた石門コースにはコクサギの低木が目立ちました。見晴らし台からの眺めは素晴らしいものでした。

冬季の自然観察会は冬眠状態でしたが、春からまた再開し、今年度も力を入れて行きたいと考えています。メンバー面々からの観察場所の希望をお待ちしています。(関端)



＜協会活動のトピック 2＞ 平成 23 年度自然の解説者養成講座修了式

当協会が主催する 23 年度の「自然の解説者養成講座」は平成 23 年 4 月 24 日(日)の開講より平成 24 年 1 月 15 日(日)の野鳥の講習までの 14 回の講座を修了し、平成 24 年 2 月 5 日(日)前橋市総合福祉会館において修了式を迎える事が出来ました。亀井理事長よりお祝いやこれからの活躍を期待する言葉が述べられ、県環境森林部緑化推進課次長高井光夫様よりお祝いならびに励ましの言葉を賜りました。受講生 23 名のうち 10 講座以上を終了された 19 名の方と補講し修了された 1 名を加えて 20 名の方に修了証が交付されました。本年度修了されなかった 4 名の方々も補講され修了されることを期待いたします。最後に受講生を代表して梅津慶子さんより答辞が述べられ、修了式を終えました。そして嬉しい事に修了された 20 名全員が協会に入会されました。その後、講座についてのご意見やこれからの意気込みなどについて一人一人「ふりかえり」を行いました。(住谷)



修了者(敬称略)

井上雄一郎、梅津慶子、大島容子、岡田正美、熊川京子、小鮎 守、近藤佳子、近藤武石、坂本明人、登坂璋典、戸丸幸子、中沢義信、春山明子、平澤 明、福島健太、福原英男、堀越俊次、茂木清美、高橋哲雄、折茂千代子

「関東地区森づくり活動コーディネーター養成ブロック研修」において活動事例発表

1 月 28 日(土)

公益社団法人国土緑化推進機構及び公益社団法人群馬県緑化推進委員会が主催する研修会が、平成 24 年 1 月 27 日(金)から 2 泊 3 日の日程で上毛会館で開催され、関東各地域の森林ボランティアや NPO 団体の 24 名が参加しました。魅力的な活動企画、参加型の組織運営や他団体との連携・協働などを視野に入れた研修であり、ワークショップ、自己研修、基調講演、事例紹介・トークセッション、現地視察と内容が織り込まれていました。



事例紹介・トークセッションでは、当協会など県内 4 団体の事例報告とパネルディスカッションが行われ、当協会の吉本一夫氏が協会の活動や森林整備活動の状況について報告し、またパネリストとして話をしました。当協会の多岐に亘る組織的な活動が理解され、多くの方に森の大切さを伝えていると称賛されました。(大谷)

第 1 回ペボまつり！ 2 月 18 日(土) 前橋市市民活動支援センター主催 受託協力部会

前橋プラザ元気 2 1 を利用している団体が一堂に会し、多目的ホールに於いて体験コーナー及びステージ演技を行いました。会場はやや狭い感じでしたが、協会員 11 名が 6 種類のネイチャークラフトづくりで参加し、緑の募金として 6,250 円が集まりました。(吉田幸)



「生物多様性とその保全ー植物の場合」講演会 2 月 25 日(土) 第 8 回会員資質向上研修 総務企画部会

前橋市総合福祉会館において、群馬県立自然史博物館の大森威宏学芸員を講師に、協会員 33 名が参加して「生物多様性とその保全」についての講演会を行いました。

講師からは次のようなお話がありました。

生物多様性を保全するためには「種」の多様性はもちろん「遺伝子」、「生態系」の多様性を保持することが大切である。今、開発と管理放棄で里山・里地が消失しつつあり、群馬県は反面教師の宝庫となっている。適度な人の管理により「生態系」を守ることが肝要である。「絶滅危惧種」に対しても、里山全体の保全実態の把握(モニタリングとデータベース化)、保全ガイドラインの作成、条例化、人づくり、保全活動に対する経済的支援が必要であり、早急に対応する必要がある。(住谷)



緑の窓



イケマとニホンジカ

第10期生 春山明子

「イケマ」という植物をご存知でしょうか？

夏に小さな白い花が丸く集まって咲く、ガガイモ科のツル性の多年草です。昨年の夏、赤城山の一角で地面いっぱい広がって花を咲かせるイケマの群落に出会いました。

私はその群落の前で思わず息をのみました。それは「花が綺麗だから」ではありません。イケマにはシナンコトキシシという毒があり、シカが食べない植物のひとつなのです。

つまりここは「イケマ以外の植物は全てシカに食べられてしまった場所」という事なのです。白樺牧場の管理人に聞いたところ、この場所は数年前までタマガワホトトギスやエンレイソウやトウゴクミツバツツジ



ニホンジカ

などの花々があったとのことでした。

このようなシカによる急激な植生改変は赤城山に限らず全国各地でおこっています。

では、なぜシカは自然環境を破壊するほど増えてしまったのでしょうか？

その原因はいくつかありますが、温暖化による積雪の減少や狩猟者の減少で死亡個体が減少したこと、森林の下層植生（餌と生息地）が増加したことなどです。これらの原因は全て人間活動に起因していることを念頭に置いて、シカなどの野生動物問題に向き合ってみてください。



イケマの花



森のしくみ

第6期生 関端孝雄

森を観察してみよう

森に入って見ると、いろいろな種類の木や草が生えています。特に木は大小様々なもの（高木・亜高木・低木）があり、数も多いことに気がきます。また、葉を見ると、針のように尖がっているもの（針葉）やシート状に薄く広いもの（広葉）、広葉の中には葉が厚く緑が濃くて1年中枝についているもの（常緑葉）や葉が大きくて薄く冬になると枝から離れるもの（落葉）など生活の型があります。

それぞれの草木は一定の秩序に沿って決まった生活をする場所があります。こうした草本や樹木で構成される森を外から眺める（相観）と、一定の特徴があり幾つかのタイプに分けられます。

観察のポイント

植物は動物のように移動することはできませんが、生活する場所を気候（特に降水量と気温）や地形の組み合わせで生活の型にマッチした適地を選択して生育しています。

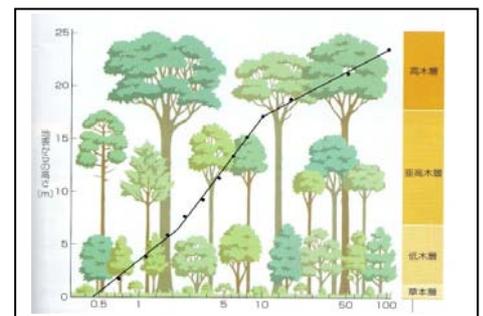
森に入って心掛けたいことは、沢山ある草木の名前を気にすることではなく、先ずは、森の中で数の多い大きな樹木（優占種）やその森を特徴づけている植物（標徴種）は何か、を観察する事だと思います。

森のつくり

良く発達した自然の森は、空間をより有効に利用する為にいろいろな種類の木や草が生え、凡そ4つの段階に分けられます。それは、高木、亜高木、低木、草本の層です（階層構造）。各層には動物達が生息します。

また、森の周辺には森の中とは違った植物が、丁度森を被いで困っているように低木やつる植物が生育し（マント群落）、更にその外側には背の低い草本が生えています（ソデ群落）。落ち葉や土中にもいろいろな生き物（土壌動物、カビやキノコなどの菌類、細菌類など）が生息しています。こうしたつくりが森の一般的な姿です。

雑木林は落葉広葉樹の高木が優占種に、シイの木が優占種の森は常緑広葉樹林の森林になります。



森林の階層構造と明るさの変化
出典：生物II 東京書籍

<昆虫の話> 第1回**昆虫とは？**

第7期生 須藤 友治

「昆虫とはどんな生き物ですか？」と問われたら、皆さんは何と答えますか。

子ども達の多くは、「脚が6本ある虫」と答えることでしょう。チョウやトンボやバッタなどの昆虫類の脚が6本であることを知っているからです。

では、「脚を6本持つ虫が昆虫である」と言い切れるのでしょうか。困ったことに昆虫ではないダニの仲間には、幼虫時代に脚を6本しか持たないものがあるのです。また、昆虫の仲間であるハエの幼虫（ウジ）には脚が見あたらないのです。

ところで、昆虫についての常識に「体が頭・胸・腹の3つの部分に分かれている」があります。これこそ昆虫の定義になるのでしょうか。残念ながら、昆虫ではないダンゴムシは、頭・胸・腹に分かれた体を持っているのです。

厳密にみると問題もあるのですが、「昆虫とは、体が頭・胸・腹の3つに分かれ、成虫期に胸部に3対6本の脚を持つ節足動物である」と定義されることが多いようです。

(注) 昆虫は一般には「虫（ムシ）」と呼ばれますが、ムシとは本来、小動物全般を意味します。漢字の「虫」は、広い範囲の生物群を指す「蟲」の略字として使われてきました。



アキアカネ



ナミアゲハの幼虫

<協会の声>**「自然の解説者養成講座」を修了して**

第10期生 平澤 明

私は、以前から環境問題、地球温暖化やヒートアイランド現象に関心があり、緑の大切さや自然保護にも興味を持っていましたが、具体的には日常の仕事に埋没していて何もしていませんでした。今回、縁あって「自然の解説者養成講座」に参加させていただいて、環境や自然について、概念や知識等頭の中でわかったつもりでいたものが、午後の実習の時間を通してほんものに触れることにより、「自分は概念的なことを考えていたが、その前に足もとのことが、ぜんぜんわかっていない。もっと身近な自然の素晴らしさやおもしろさを五感で知る必要がある。」ことに気づかされました。今まで、あまり自然とふれあう機会は少なく山登りも経験はあるが、どちらかという体力づくりに関心があり、山道もスタコラ・スタコラ登ることが多く、出会う樹木や草花も歩きながら観察する程度でした。今回、講師の先生の案内で山道を歩き、出会う樹木や草花のよさや特徴等を立ち止まって教えてもらおうと、その樹木や草花がクローズアップされ自分の心の中に入ってきました。このことこそが、自然と人間の架け橋たるインタープリターの役目なのだと思います。もちろん、鳥や昆虫、爬虫類や水生生物、きのこ類等も同様で、講師の先生には自然の解説者としてのモデルとなっていただきました。とても参考になりました。

講師の先生方からはどの講座でも「動植物の名前等だけでなくその背景を知ることがもっと大切です。」と教えていただきました。今後は、その時々に関心のある動植物を見つけて、さびつき始めた脳を活性化させようと思います。国際的な課題となっている環境問題の根本的な解決のためには、人間と同じ生命体である動植物に関することをよく知って理解を深め、自然の生態系を理解することこそがその第一歩になると思います。

今後は、本協会主催の研修会や自然観察会、ボランティア活動等に積極的に参加し、身近な動植物を通して奥深い自然に接し、その自然や緑を守っていききたいと思います。

<協会が実施する事業・研修会等>

実施日	内容	会場
平成24年4月15日(日)	第10回定期総会 研修1(西上州の地質と日本ジオパーク)	前橋市総合福祉会館
平成24年4月22日(日)	自然の解説者養成講座 開講式	前橋市総合福祉会館
平成24年4月28日(土)	室沢交流の森整備①(サンデンフォレスト内)	室沢交流の森
平成24年4月29日(日)	敷島公園まつり	敷島公園
平成24年5月12日(土)	緑のインプリの森整備	緑のインプリの森
平成24年5月20日(日)	覚満淵のササ刈り作戦①	赤城山覚満淵
平成24年5月26日(土)	みどりの子の森整備①	みどりの子の森
平成24年6月9日(土)	みどりの子の森整備②	みどりの子の森
平成24年6月16日(土)	研修2(玉原自然観察会)	玉原湿原とその周辺
平成24年6月21日(木)	研修3(ホテルの生態と観察研修)	サンデンフォレスト
平成24年6月23日(土)	室沢交流の森整備②(サンデンフォレスト内)	室沢交流の森

<編集後記>

春到来！木々は芽ぶき、鳥はさえずり、花は咲き乱れております。我々、インタープリターのシーズンがやってきました。大人も子供も「何か、今までにやったことのないことをやってみよう！」と、思う時期でもあります。是非、大人も子供も夢中になって取り組めるような企画を立てて、大勢の人に参加してもらえるように、企画部も一丸となって、頑張っています。今年度もよろしくお願ひ致します。(T. Y)